

子どもから大人までがほっこりできる空間づくり ～ 移動型プレーパーク ～

計画目標	定期的な地域の公園でプレーパークを開催し、子どもから高齢者まで人が集まる機会が広がっている。 子どもたちと地域の人、顔の見える関係になることで、子どもたちに伝えたい(自転車のルールやゴミなどのマナー等)を伝える関係が地域の中にできている。
------	--

概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊ばれていない公園がたくさんある。 ・ 地区で事業(イベント)をしても親子、子どもの参加が少ない。 ・ おまつりの時くらいしか、人が集まるきっかけがない。 ・ ゴミが放置されるなど、まちの中のマナーも悪くなってきている。
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)		取り組み	備考
1年後	現状が把握できている。 実現に向けて、地域で企てチームができている。 公園清掃で地域とつながり始めている。	わたし	・ プレーパークを多くの人へ説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレーパークが子どもだけの取り組みではなく、誰にとっても集うことができる場であることを伝える。 ・ まずは、現状把握も行いながら、じっくり、企てる側も楽しめること(うれしいこと)を考える。
		自分たち	・ 地域の中の公園の現状を知る(調査を行う) ・ 公園等の整備を手伝う。	
		自分たち	・ どんな場にしたいかを考える地域の中に企てグループをつくる。	
		地域	・ まずはプレーパークを知る。 ・ 公園を再認識する。	
3年後	実際にやってみる機会(定期的)・できる場所(公園等)が増えている。 公園が憩いの場所になっている。	自分たち	・ プレーパークを(定期的)にひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つ大切に思うことは、参加者をお客様にしてしまわない工夫。
		自分たち	・ カタチになってきた自分たち流のプレーパークを知ってもらう(広報)	
		地域	・ 自分たちという集まりから地域のこととしての活動へ。	
		地域	・ 公園、空き地等の有効利用を考える。	
5年後	コンテナ車利用など、新しいプレーパークのチャレンジができている。	自分たち	・ 継続しやすいプレーパークの運営を見直す	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツではコンテナ車でいろんな場所に移動しながらプレーパークを開いているようなので、そのような体制ができると活動の幅が広がる。
		地域	・ プレーパークだけでなく、人が集える新たな方法を企てる。	
		出資者	・ コンテナ車等の提供	